

ラ・ボエーム News

特別寄稿



全4幕/イタリア語上演・日本語字幕付/新制作

【音楽】ジャコモ・プッチーニ 【台本】ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイジ・イッリカ

この歌手たちに注目!!

【指揮】佐渡 裕

【演出】ダンテ・フェレッティ

ダブルキャストでお贈りする2020年の「ラ・ボエーム」。初日はイタリアでのオーディションで選ばれた若き歌手、そして2日目は第一線で活躍を続ける旬の日本人歌手を中心にしたキャスティングでそれぞれの「ラ・ボエーム」を創りあげます。今回は国内随一の歌手たちの活躍ぶりに注目!その魅力をオペラ研究家の岸純信さんにご紹介いただきます。

《ラ・ボエーム》日本人歌手の活躍と魅力

岸 純信(オペラ研究家)



ジャコモ・プッチーニ(1858~1924)

作曲家プッチーニには、オペラ《ラ・ボエーム》の世界にも通ずる「苦学生」の日々を送った経験がある。ミラノ音楽院に通う際、下宿代を節約すべく、5歳年下のマスカーニ(オペラ《カヴァレリア・ルスティカーナ》で有名)と1年ほど共同生活を送り、出版されたばかりのワーグナーの楽劇《パルジファル》の楽譜を、なけなしの金をはたいて一緒に買い求め、二人で代わりばんこに読んで勉強していたというのである。

若き日はみな貧しいもの。日本オペラ界の第一線で活躍する名歌手たちも、同種の体験をそれぞれ持っているようだ。筆者はインタビューの機会も多く、彼ら彼女らからそれは様々なエピソードを聞かせてもらってきた。思うに、真に実力ある芸術家ほど、世に認められるまで時間がかかるものらしい。しかし、いったん陽の目を見ればあとは成功へとまっしぐら。不断の努力さえ怠らなければ、前進へのエネルギーが途切れることはない。

さて、西宮でこの夏、パリの冬が舞台の《ラ・ボエーム》を上演すると聞き、「あの人ヒロインのミミを歌うのなら!」とすぐ連想した名前がある。それが砂川涼子である。南国そのものの宮古島出身で、ひときわ

華やかな面差しを持つ彼女は、初々しい声から儂げな感も濃く漂わせるので、「誰よりも雪景色が似合う」ソプラノと紹介したいほど。事実、お針子ミミは砂川の最大の当たり役であり、かつてNHKでテレビ放映された舞台も大きな話題になったほどである。第1幕の〈私の名はミミ〉や第3幕の〈さようなら〉など名場面も多いだけに、薄幸の美女と呼ぶに相応しく、かつ、歌いぶり豊かな彼女のミミを、この機に生で観て貰えればと思う。

一方、相手役の詩人ロドルフォは、邦人歌手随一の逞しい声を誇る**笛田博昭**が歌うとのこと。身長180cmもあるという堂々たる人気テノールだが、持ち前の美声の根幹は「滑らかさ」なので、この青年役も彼が得意とする一つになっている。最高音域までたっぷり響かせる笛田の歌声なら、第1幕の自己紹介の aria〈冷たい手〉や、ミミと共に歌い上げる流麗な〈愛の二重唱〉も期待大だろう。

続いて、ロドルフォの親友で画家のマルチェッロは、ドイツで活躍中のバリトン、**高田智宏**が担当。2017年にキール歌劇場宮廷歌手の称号を



©Yoshinobu Fukaya

共にプロデュースオペラ初登場となる
砂川涼子と笛田博昭



裏面に続く▶

【全8公演】2020 7/24(金・祝) 25(土) 26(日) 28(火) 29(水) 30(木) 8/1(土) 2(日)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール 各日2:00PM開演(1:15PM開場) 上演時間:約2時間30分(休憩2回)

芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 10:00AM~5:00PM
月曜休※祝日の場合翌日 <http://www.gcenter-hyogo.jp> 主催/兵庫県、兵庫県立芸術文化センター(制作)



2017年芸術監督プロデュースオペラ「フィガロの結婚」に出演した
高田智宏(左)、町英和(右)



©Christine Kaufmann

所属するウィーン・フォルクスオーパーでの
「フィガロの結婚」題名役を歌う平野和

最年少で得たほどの実力派の高田、西欧人に引けを取らない背丈の持ち主でもあり、舞台映える演技力も注目されるが、彼の一番の美点は何より、明るくノブールな声である。インタビューした際もハキハキと快活に語る姿がそれは清々しく、愛すべきキャラクターそのものの若さを漲らせていた。第4幕の〈追憶の二重唱〉も、この高田が、笛田と共に、哀歎の想いを込めてじっくりと歌い上げるに違いない。

また、彼らの良き友人として、屋根裏部屋でもともに同居生活を送るのが音楽家ショナールと哲学者コッリーネである。今回、前者は、兵庫県立芸術文化センターでもお馴染みの肉厚のバリトン町英和が演じ、後者は、ウィーンで長らく歌ってきたバス・バリトンの平野和が担当する。この二人も声量豊かで若々しい名歌手だが、中でも、町のいなせな感じ、平野の安定感著しい声は、どちらも、役柄にぴたりと重なる個性である。それだけに、第1幕や第4幕で彼らが賑やかに繰り広げる

アンサンブルが、オペラの味わいをいっそう高めてくれることだろう。

なお、今回は《ラ・ボエーム》の人気のアリア、ワルツ(私が街を歩くと)を色っぽく歌うムゼッタ役で、ジョージアからはるる、新進ソプラノのソフィア・ムケドリシュヴィリも参加とのこと。中央アジアに位置しながら、イタリア語でオペラを歌う伝統が長いジョージアは、近年、世界的な歌手を輩出するオペラ界の大国である。きりっとした歌いぶりや婀娜っぽさも表現できるムケドリシュヴィリが、第2幕の登場シーンで華々しさを存分に振りまくさまを、今から楽しみにしている。



©Bachana Merabishvili

ジョージアから初来日を果たす美貌のソプラノ ソフィア・ムケドリシュヴィリ

7/24								
26	ミミ Mimi	ロドルフォ Rodolfo	ムゼッタ Musetta	マルチェッロ Marcello	ショナール Schaunard	コッリーネ Colline	ベノア / アルチンドロ Benoit / Alcidoro	パルピニョール Parpignol
29	フランチェスカ・マンツォ Francesca MANZO	リッカルド・デッラ・シウッカ Riccardo DELLA SCIUCCA	エヴァ・トラージュ Ewa TRACZ	グスターボ・カスティエリョ Gustavo CASTILLO	パオロ・イングラシオッタ Paolo INGRASCIOTTA	エウゲニオ・ディ・リエート Eugenio DI LIETO	ロッコ・カヴァルツツィ Rocco CAVALLUZZI	清原邦仁 Kunihito KIYOHARA
8/1								

7/25								
28	ミミ Mimi	ロドルフォ Rodolfo	ムゼッタ Musetta	マルチェッロ Marcello	ショナール Schaunard	コッリーネ Colline	ベノア / アルチンドロ Benoit / Alcidoro	パルピニョール Parpignol
30	砂川涼子 Ryoko SUNAKAWA	笛田博昭 Hiroaki FUEDA	ソフィア・ムケドリシュヴィリ Sofia MCHEDLISHVILI	高田智宏 Tomohiro TAKADA	町英和 Hidekazu MACHI	平野和 Yasushi HIRANO	片桐直樹 Naoki KATAGIRI	水口健次 Kenji MIZUGUCHI
8/2								

【全8公演】 2020 7/24(金・祝) 25(土) 26(日) 28(火) 29(水) 30(木) 8/1(土) 2(日)

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール 各日2:00PM開演(1:15PM開場) 上演時間:約2時間30分(休憩2回)

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口徒歩15分(阪急バス7分) A 12,000円 B 9,000円 C 7,000円 D 5,000円 E 3,000円 [消費税込 全席指定]

ご予約・お問合せ 芸術文化センターチケットオフィス 0798-68-0255 [10:00AM~5:00PM 月曜休※祝日の場合翌日]
インターネット予約) <http://www.gcenter-hyogo.jp> お席も選べます! 兵庫 ボエーム 検索

【ご注意】※未就学児童のご入場はご遠慮ください。※やむを得ない事情により、出演者等が変更となる場合があります。最終の出演者は当日発表とさせていただきます。※開演時間に遅れますと、長時間入場をお待ちいただくことや、立ち見となる場合がございます。時間に余裕を持ってお越しください。※場内での写真撮影、録音、録画、携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。※本公演の字幕は舞台の両脇に設置されます。一部見にくい席がある場合がありますが、あらかじめご了承ください。※公演中止の場合を除き、他の日時・席種への変更及び払い戻しはいたしません。
主催/兵庫県、兵庫県立芸術文化センター(制作)